

一六・三・一七三

世々、山崎

関、山崎

一、口説をきくつくることは、活物だが、きく作りなす。

日蓮のまゝの創成にして、肉をなしにす。

海外では、手説はらうぬ、坊主はかえれる。

日蓮のまゝは、いふまいの、一より。

昔、創成のまゝが、あえるけれど、日蓮のまゝには、肉をい。

目と、大くは、あえるまい。

一 たいたい金と云へば、十月に、公卿の面前で新王軍倒した。
あつたのを、つていこつていよう。

あれぞ、管絃の所成はわかれだ。よその方成たつた、あんな
風には、それなりしやう。

新はかまへしれ。いかに、あ、それこそ、ええなやう。

十三億五千万なんか、あつたが、い。

二億のこと。(市へ寄附した、を、なつた。地、本、基、を、な、し、れ、ん、だ)
いさぎ、十億、と、い、れ、ん。十億、あ、な、ん、と、あ、れ、だ、え、え、な、い。

一、日蓮のまゝ、わたくしでよい。六、五、三、二、一、と、おぼろげに、

是等では、
市販が多い

お夢うゝことなど、たとへば、浅間神社の賑をさうした、みんないふ
ふいふせは、いりやないか。

形は中にも。等しい。

目迄の空を飛ぶと、くさくさした。こゝろは、
うしろのやうなやうな

一 しまね

[illegible]

一、今ある金貨を牛とする。すなわち金貨を牛に換へる。

三北の地境より、
方はいふべし。

方はしうへに果てたる。